

2026年度 第2回 理事会 抄録

日 時： 2026年5月10日（日） 9：30～15：13

場 所： 日本理学療法士協会会館

出席者：

理 事： 齊藤、大工谷、吉井、佐々木、高橋、湯元、
白石、板倉、谷口、長谷川、森本、伊藤、内山、江草、岡持、小川、沖原、
大西、熊崎、永野、野崎、松井、山根

監 事： 太田、櫻田、辺土名

欠席者

理 事：

監 事：

I. 審議事項

(全10題)

1. 定款変更案についての件	(湯元副会長)	承認
定款変更案についての件について審議がなされ、総員賛成で承認された。		
(主な内容)		
4月理事会において定款変更再審議をしていただいたが、その際に、変更不足と附則部分に不備があったため、再度審議がなされた。		
(主な意見)		
特になし		
2. 第55回定時総会の議題の修正に関する承認について	(白石専務理事)	承認
第55回定時総会の議題の修正に関する承認について審議がなされ、総員賛成で承認された。		
(主な内容)		
第55回定時総会の議題については、4月理事会で承認を頂いたところであるが、法人法関連法令改定に伴う修正、追加並びに法律に即した正確な表現変更に関して、それぞれにまとめ上げ、審議がなされた。下記の修正についても併せて審議がなされた。		
・ 第18号議案 「総会議事運営規程の改正の承認を求める件」の表題を「定款細則廃止、委員追加や用語の定義追加等に係る総会議事運営規程改正案の承認を求める件」に改める。		
・ 第19号議案 「懲戒規程の改正の承認を求める件」の表題を「処分決定プロセス変更に係る懲戒規程改正案の承認を求める件」に改める。		
・ また、議題をまとめ上げることにより、議題の数が減少することに伴い、第23号議案の号番号を繰り上げる。		

(主な意見)

- ・ 第 18 号議案「定款細則廃止、委員追加や用語の定義追加等に係る総会議事運営規程改正案の承認を求める件」について、第 7 号議案と同様に「定款細則廃止等に伴う」といった文言にした方が分かりやすいのではないか。
→第 18 号議案は「定款細則廃止等に伴う変更及び委員追加や用語の定義追加等に係る総会議事運営規程改正案の承認を求める件」と修正する。

3. 2025 年度事業報告および決算報告の承認について

(斉藤会長、大工谷副会長、吉井副会長、佐々木副会長、高橋副会長、湯元副会長、白石専務理事、板倉常務理事、谷口常務理事、長谷川常務理事、森本常務理事)

承認

2025 年度事業報告および決算報告の承認について、総員賛成で承認された。

(主な内容)

定款第 37 条にもとづき、定時総会へ提出するため、2025 年度事業報告案および決算報告案について、審議がなされた。

(主な意見)

- ・ 定款にかかる事業の 6. その他は公益目的事業ではないとの指摘があったため、削除する。そのため、「公益目的事業の実施状況」に「以下の 6 つ」とあるが、「以下の 5 つ」となる。
- ・ (4) 本会事業を支える組織基盤の強化内の「入会促進および肝炎定着の成果という観点ではなお、改善すべき課題が存在している」ではなく、「山積している」に修正する。
- ・ 当該公益法人の運営体制の充実を図るための取り組み内の冒頭に記載されている「本会では、」を削除する。
- ・ 公益目的事業の実施状況の 6. その他は削除するのではなく、「その他交易目的に資する事業」と残した方がよいのではないか。5 番目まででは限定された事業となり、それ以外出来ないことになる。
→今、本会の「その他事業」には保険に関する事業を挙げている。
- ・ 5 番までの記載ならば、本当に限定された事業となり、それ以外はできないことになる。定款に、公益事業に付随する事業ができると書かれているのであれば「6. その他」は残しておいたほうがよい。
→記載がある。定款上は 7 つ記載があるが、現実に即して今の流れにした。
- ・ 現実的に 2025 年度に何をやったかという話であり、6. その他は不要かと思う。
- ・ この「その他」は、共益事業のその他事業ではなく、公益事業に付随するその他事業のため、公益事業の中だが、「その他」は行っていないのか。
→保険のものは公益事業ではないので、そこは入らない。2025 年度の事業に関してはこの 1 から 5 の内容に振り分けており、その他の事業は実施していないため、削除する。
- ・ 2025 年度事業総括報告(案)の(4)本会事業を支える組織基盤の強化について、組織率の低下について記載がある 2 段目を本論とすべきではないか。
- ・ 国際事業に関して、正確を期すのであれば「開催地協会として積極的に協力し、」とすべきではないか。
- ・ COVID-19 の影響により開催年度が変更等、苦労があった中で成功させたという一言加えることは、振り返りになってよいのではないか。
- ・ 看護職と理学療法士の共同体制に関して、様々なステークホルダーに対する対外的な働きかけは理解した。会員が自信を持って業務できる文言が上位層に出てくるような形になるとよい。
- ・ 理学療法業務の中で DX をどのように活用していくかが、組織の中の委員会の主目的だろう。理学療法の診療補助の効果を目標としていながら、会員のニーズは事務支援に重きがある。委員会として、事務支援にシフトするか、それとも新しい理学療法について活用していくのか、方針が会員へ伝わるようになればよい。
- ・ 60 周年記念事業の記念誌に関して、担当理事の記載を願いたい。

- ・ DX 活用について、新しい情報を発信するのは勿論、会員管理の部分でかなり重要ではないか。動画コンテンツも含め、LINE 主体に出来ないか。
→ご意見として賜る。LINE 運用に関しては、かなりの人数が利用しているため、検討を進めていきたい。
→賛助会員と懇談する中で、DX の取り組みやアンケートへの回答のお願いなども行っている。DX を活用している賛助会員の団体を回ることも多いため、その際にはアピールをしていきたい。
- ・ 正味財産増減計算書の経常費用及び管理費のどちらも給与手当及び賞与が減少、その分退職給付費用が増額している。昨年度の退職者数と新しく入職した人数を教えてください。
→昨年度は、事務局職員が期中で1名、期末で2名の計3名退職した。新たに入職したのは教育推進課に中途で入った職員が1名だ。育休者もあり、職員全体としては減っている。
- ・ 少ない職員の中で行っている事業をどのように展開していくか、DX や AI 等を活用しながら、いかに事業を回していくのか、今後検討する必要がある。
- ・ U40 Future Network 事業について、目的に沿った事業の達成度合いは今年度どの程度あったのか。
→今年度は具体的な数値目標を上げておらず、達成度合いは明記できていない。3年ステップを考えており、接点の創出を中心としたためその部分においては達成できた。アンケートの中で協会の親密度が高くなったと結果が出ている。
- ・ U40 事業に関して、学生以外で非会員の参加者が合計 56 名、休会者が2名参加していたのは事業の成果であるため、報告書に具体的に明記した方がよい。
→公益事業のため、非会員にも広報した。その広報がどこまで届いているか不明という課題もあり、それは次年度に続けていきたい。
- ・ 産業保健・母子保健推進リーダーの育成や学校保健について、仕組みや立ち位置がつけられた際、出来る人材を増やすことと同時に、活動する場所を確保するべきではないか。代議員の方々には都道府県士会と協力してそういった取り組みを進めるというメッセージを添えてはどうか。また、3協会でもそういった話をしている、もしくは今のタイミングで都道府県の3職種の連絡協議会等を紹介する。場合によっては3職種の会を繋ぎ、意見交換など交流を持つということも情報提供としてはいかがか。
- ・ DX の取り組み事例を見せる発信をするべきではないか。都道府県士会の事業担当が参考にできるクラウドの LLM (大規模言語モデル) を無料で提供する。それを用いることで、各自で質問をして答えを得ることが可能となる。それも DX 化の一つである。
- ・ 職域の拡大や推進リーダーの活動も、各県の取り組み事例も LLM 化し紹介することで、都道府県士会の職能担当や公益事業担当が調査する材料として活用できるだろう。会報やニュースなどに AI 使用の活用事例や DX の例として発信できるため、検討いただきたい。
- ・ 総会に臨むにあたって、昨年度は歴史的偉業を成し遂げたという自覚を役員全員で持つべきである。課題は山積しているとはいえ、成果や達成したことを念頭に置き、本会事業を前進させていく志を持つことが重要である。

4. 第 55 回定時総会 次期議事運営委員の推薦について	(斉藤会長)	承認
<p>第 55 回定時総会 次期議事運営委員の推薦について、総員賛成で承認された。</p> <p>(主な内容)</p> <p>総会議事運営規程第 3 条の定めるところにより、定時総会にて議事運営委員の立候補がなかった場合(定足数を満たさない場合)に備え、以下の者を次期議事運営委員として推薦することを、推薦の順位を含め、審議がなされた。</p> <p>なお、総会議事運営規程改正が総会にて承認された場合、その承認をもって改正後の規程を当該総会から適用</p>		

することについて、あわせて代議員の同意を得る予定である。これに伴い、会長指名に専務理事を追加し、総会当日に議事運営委員候補者と共に承認いただく予定であることを申し添える。

議事運営委員候補者

1. 及川 龍彦氏 (岩手県)
2. 渡辺 真樹氏 (群馬県)
3. 小川 昌 氏 (島根県)
4. 仲川 仁 氏 (富山県)
5. 平名 章二氏 (鹿児島県)

会長指名

- ・白石 浩 氏 (専務理事)
- ・中尾 弘丈 氏 (事務局職員)

任期 第55回定時総会終了時から第56回定時総会終了時まで

(主な意見)

特になし

5. 第55回定時総会 議長団の推薦について

(斉藤会長)

承認

第55回定時総会 議長団の推薦について審議がなされ、総員賛成で承認された。

(主な内容)

定款第15条および第18条第2項、総会議事運営規程第5条の定めるところにより、議長・副議長の立候補がなかった場合に備え、以下の者が推薦され、審議がなされた。

議長：西浦 健蔵 氏 (福岡県)

副議長：豊田 輝 氏 (東京都)

※なお、以下の者は議長、副議長の指名による

議事録署名人：山下 裕太郎 氏 (静岡県)、高橋 哲也 氏 (広島県)

書記：河野 恭平 氏 (事務局職員)、鳥居 和雄 氏 (事務局職員)

(主な意見)

特になし

6. 「常勤役員要件審査委員会」委員の理事会推薦候補者について

(斉藤会長)

承認

「常勤役員要件審査委員会」委員の理事会推薦候補者について審議がなされ、総員賛成で承認された。

(主な内容)

常勤役員要件審査委員会規程第4条に基づき、代議員から選出する委員の公募を実施した結果、11名の立候補があり、抽選により以下のとおり委員4名、次点委員1名の候補者が確定した。

<p><委員候補者4名> (敬称略)</p> <p>大住 崇之 (千葉県理学療法士会：医療法人社団松恵会けやきトータルクリニック)</p> <p>喜瀬 真雄 (沖縄県理学療法士協会：一般財団法人 琉球生命済生会 琉生病院)</p> <p>佐藤 勢 (福島県理学療法士会：「聖・オリーブの郷」東館)</p> <p>佐藤 義文 (北海道理学療法士会：札幌溪仁会リハビリテーション病院)</p> <p><次点委員候補者1名> (敬称略)</p> <p>峰松 一茂 (佐賀県理学療法士会：医療法人友和会 鶴田整形外科)</p> <p>また、常勤役員要件審査委員会規程第7条では、理事もしくは理事経験者1名および、中途退任に備えた次点委員1名については、理事会が候補者を推薦することになっている。理事会推薦として、以下の候補者を総会で選出することについて、審議がなされた。</p> <p><理事もしくは理事経験者の推薦者1名> (敬称略)</p> <p>間瀬 教史 (兵庫県理学療法士会：甲南女子大学)</p> <p><理事もしくは理事経験者の次点推薦者1名> (敬称略)</p> <p>黒澤 和生 (埼玉県理学療法士会：川口きゅうぼりリハビリテーション病院)</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年以上に立候補者が多かったのか。 →立候補者が11名と、例年より多くなっている。 ・抽選の際に、例えば性別や地域性等、全体として運営に配慮があってもよいのではないか。
--

7. 懲戒委員会委員長の推薦について	(斉藤会長)	承認
<p>懲戒委員会委員長の推薦について審議がなされ、総員賛成で承認された。</p> <p>(主な内容)</p> <p>懲戒委員会の委員長は、2025年度第54回定時総会で委員に選任された、庄本康治氏が務めているが、委嘱に際し本来2年間とすべき委嘱期間について、委嘱状において1年間と誤記する手続き上の誤りがあった。このため、2026年度第55回定時総会の終結の時をもって退任することとなった。</p> <p>このことから、後任の委員として以下の者を総会へ推薦するため、審議がなされた。</p> <p>●理事会推薦者候補 (敬称略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名：小塚 直樹 ・所属：北海道千歳リハビリテーション大学 ・任期：前任者の残任期間 (2027年度第56回定時総会の終結の時まで) <p>(主な意見)</p> <p>特になし</p>		

8. 第63回日本理学療法学会 準備委員長の変更について	(湯元副会長)	承認
<p>第63回日本理学療法学会 準備委員長の変更について審議がなされ、総員賛成で承認された。</p> <p>(主な内容)</p>		

第63回日本理学療法学会学術研修大会 in 福井について、2025年10月理事会で大会長および準備委員長のご承認を頂いた。準備委員長については、当初、福井県理学療法士会会長の小澤 純一氏を予定していたが、「次世代を担う若手層等を積極的に登用する」という日研の指針にのっとり、準備委員長を亀井 健太氏に変更することについて、審議がなされた。

なお小澤氏には相談役もしくは副大会長として携わっていただく予定である。

○準備委員長

小澤 純一 氏 (所属：福井県理学療法士会)

↓

亀井 健太 氏 (所属：訪問看護ステーション+リハ うみがめ)

(主な意見)

特になし

9. 60周年記念事業 LINE スタンプ収益の寄付について

(吉井副会長)

保留

60周年記念事業 LINE スタンプ収益の寄付について審議がなされ、本議題は保留となった。

(主な内容)

60周年記念事業 WG では、協会公式キャラクター「にこるくん」の LINE スタンプを作成し、その収益について経費を差し引いたうえで寄付することとして販売している。

今回、2026年7月に寄付を行うにあたり、以下の通り検討し、審議がなされた。

1. 寄付金額 14,441 円

※金額は2026年2月末時点。最終金額は寄付手続き時の収益金額とする。

2. 寄付にあたり、収益が少額のため経費は差し引かず全額を寄付金とする。

3. 寄付先を「国立成育医療研究センター 医療型短期入所施設「もみじの家」基金」とし、病児を抱える家族も含めた支援の取り組みに活用いただく。

<https://www.ncchd.go.jp/donation/>

(主な意見)

・せめて5万円ぐらい集めたほうがインパクトもある。寄付を受ける側としては、14,441円でもありがたいと思うが、使い道に困るのではないかと。

→寄付金額については、本来は経費を差し引く予定だったが、それほどの金額にならなかった。寄付することで購入いただいております、その趣旨を尊重し、この金額を寄付したい。上乘せについては検討してなかったため、公益法人として可能かどうか、またはその財源があるかどうかについては、持ち帰って検討したい。

・毎年、日本理学療法士協会は事業として障害者団体に助成していた記憶がある。14,441円だけの特出しして寄付すると目立つため、もともと予定していた障害者団体等の助成事業に混ぜて、LINE スタンプを購入された方の意向に沿って処理することも可能ではないかと。

→助成事業の予算が100万円なので、次年度の助成事業の予算を101万4,441円にするという提案だと理解した。

・理事23名が2,000円ずつ出せば4万6,000円になるだろう。残額は理事各位から集め、それで5万円にしたほうがよい。

- ・ 寄付なのに少ない・多いで決めてしまうと、次に実施する際に区切りのよい金額に合わせるのかという議論に繋がってしまうのではないかと懸念。寄付をすることで記録には残り、この団体は公益に資する活動をしているという見せ方も可能である。
- ・ このLINEスタンプは、既に販売終了しているのか。
→ 現在も販売中である。2026年7月17日が最終販売日である。
- ・ 販売中であれば金額が変動していく可能性もあるという理解でよいか。
→ 減額はないが、かなり増額するという事もないという想定である。
- ・ 一度決めたものであり、多かろうが少なかろうが、ルールどおりにしたほうがよい。理事から徴収して5万円にするということだが、出す意味がわからない。金額が少ないことは事実として、粛々と進めたほうがよい。あるいは、寄付できるほどの売り上げが上がらなかったということで、寄付しないという選択肢もある。
→ 寄付しないという選択肢はなかった。少額でも寄付し、経費は事業費から出すという提案だ
- ・ 7月に事業終了なのであれば、今回審議すべきではないため保留にすべきである。

10. 新入会員の承認について（動向報告および賛助会員の入退会等含む） （吉井副会長） 承認

新入会員の承認について審議がなされ、総員賛成で承認された。

（主な内容）

定款第6条により、2026年3月16日～2026年4月15日の間、新たに申請をした正会員207人について、審議がなされた。

（主な意見）

特になし

II.報告事項

(全14題)

1. 2025年度 U40 Future Network 事業の活動報告

(吉井副会長、野崎理事)

2025年度 U40 Future Network 事業について、報告がなされた。

(主な内容)

理事会で承認された2025年度予算事業に則り、U40 Future Network 事業を実施し、2025年度の活動内容を整理したため、報告がなされた。

(主な意見)

- ・今いる会員を繋ぎとめる施策が重要だ。U40であるにもかかわらず、上の年代の方があまり多いのは心配だという声も挙がった。
- ・職能事業も含め、協会の役割は都道府県士会が展開できるモデル的な部分であり永続的に実施するものではない。数年間でどう道筋を付けていくのが重要である。
→本事業は3年計画であり、事業継続ありきではなく、このまま進めていいのか、形を変えるべきか、2027年度はしっかりと事業評価を行いたい。
- ・キーワードは主体的に参画された方々が主体的に士会に持ち帰り広げたということだ。自主的な形ができたのは良い点である。今度は下から上に上がっていくフレームをつくり、今後の事業の中で上手くいった都道府県士会をアワードのような形で光を当てていきながら、主体的な士会が広がっていくとよい。
→部会の中で前向きに検討する。
- ・休会・退会・入会に紐づくように分析することで、様々な事業にヒントになるだろう。

2. 代議員ネットワーク支援部会、報告書

(長谷川常務理事)

代議員ネットワーク支援部会について、報告がなされた。

(主な内容)

代議員ネットワーク支援部会は、前年度の「代議員ネットワーク検討部会」の提言を踏まえ、代議員の役割理解の促進および対話機会の創出を通じて、代議員機能の強化ならびに組織の意思決定プロセスの質的向上を目的として設置された。

代議員は法人法上の「社員」として重要な役割を担う一方で、役割理解のばらつき、横断的な情報共有機会の不足、代議員間の関係性の希薄化等の課題が指摘されてきた。

これらの課題に対応するため、本部会では「代議員ネットワークの構築」を主軸に、実践的かつ継続可能な支援方策について検討を行ったため、報告がなされた。

(主な意見)

特になし

3. 選挙管理委員公募の結果について

(斉藤会長)

選挙管理委員公募の結果について、報告がなされた。

(主な内容)

選挙管理委員会規程第2条第3項に基づき、選挙管理委員の半数（3名）を改選すべく公募した結果、6名の立候補があったため抽選を行い、以下3名を候補者として選出したことについて、報告がなされた。

<選挙管理委員候補者3名>

栗田 慎也 （東京都理学療法士協会：東京都立大久保病院）
堀 健太郎 （東京都理学療法士協会：榊原記念病院 ）
小林 元彰 （岡山県理学療法士会 ：倉敷北病院 ）

(主な意見)

特になし

4. 2026年度認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関の新規募集の一部停止について （湯元副会長）

2026年度認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関の新規募集の一部停止について、報告がなされた。

(主な内容)

認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関について、2026年度の新規募集（2027年度より開講）では現在教育機関の開講がない疼痛管理分野のみを募集することとなり、報告がなされた。

(主な意見)

特になし

5. 一般社団法人日本作業療法士協会からの回答について

(斉藤会長)

一般社団法人日本作業療法士協会からの回答について、報告がなされた。

(主な内容)

本会は、令和8年4月理事会において報告したとおり、一般社団法人日本言語聴覚士協会と連名で、一般社団法人日本作業療法士協会に対し、同協会誌掲載記事に関する事実関係の確認および是正対応を求める文書を送付した。

今般、当該依頼に対する同協会からの回答が得られたことから、その内容について報告がなされた。

(主な意見)

特になし

6. 会長行動録について（4月）

(斉藤会長)

会長行動録（4月）について、報告がなされた。

(主な内容)

2026年4月分の会長行動録について、報告がなされた。

(主な意見)

・総会にて、都道府県士会のアドボカシー活動をねぎらい、さらにこういった活動が盛り上がるような発言をお願いしたい。

→承知した。意識して発言できるよう努めるが、理事の方々もそういった発言や言葉掛けをしていただきたい。

7. 事務局報告について (4月)

(白石専務理事)

事務局報告 (4月) について、報告がなされた。

(主な内容)

以下について、報告がなされた。

1. 会員動向
2. 財務報告
3. 賛助会員数
4. 公文書発信収受件数
5. 後援許可
6. 協賛許可
7. 共催許可
8. 事務部門報告

(主な意見)

特になし

8. 2025年度日本理学療法士教員協議会 報告書

(斉藤会長)

2025年度日本理学療法士教員協議会について、報告がなされた。

(主な内容)

一般社団法人全国大学理学療法学会が主催する2025年度教員協議会について、助成結果として報告書が提出されたため、報告がなされた。

(主な意見)

特になし

9. 2025年度認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関に関する実績報告について

(湯元副会長)

2025年度認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関に関する実績報告について、報告がなされた。

(主な内容)

認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関の2025年度の実績について、報告がなされた。

【報告資料】

・実績報告

→認可機関数、開講・開講中止機関数、受講認定者数、閉講機関数

なお2025年度より褥瘡・創傷ケア分野の教育機関が初めて開講であった。

- ・2024年度の認可機関数177、受講認定者数1,342人に対して、2025年度は、認可機関数181(+4)、受講認定者数1,536(+194)人と、増加していた。

(主な意見)
特になし

10. 令和7年度地域保健総合推進事業の報告及び令和8年度事業計画について (吉井副会長、岡持理事)

令和7年度地域保健総合推進事業の報告及び令和8年度事業計画について、報告がなされた。

(主な内容)

令和7年度地域保健総合推進事業の報告をするとともに、令和8年度事業計画について事業実施決定の通知があったため、報告がなされた。

(主な意見)

特になし

11. 第5回理学療法士作業療法士専任教員養成講習会について (湯元副会長)

第5回理学療法士作業療法士専任教員養成講習会について、報告がなされた。

(主な内容)

本会、全国リハビリテーション学校協会および日本作業療法士協会の主催により開催された第5回理学療法士作業療法士専任教員養成講習会について、報告がなされた。

- ・開催期間は2025年12月1日(月)～2026年2月18日(水)、月曜日から金曜日までの9:00-17:50である。
- ・実施方法はZoomを利用したオンライン方式(期間内にe-Learning 39時間を含む)。
- ・受講料は200,000円(PMET修了者:150,000円)である。
- ・受講者:91名
- ・職種;PT 57名, OT 28名, ST 6名
- ・性別:男性64名, 女性27名
- ・平均年齢:38.4±7.8歳
- ・所属先:養成校81名, 病院・施設・その他10名
- ・PMET修了者:8名
- ・臨床実習指導者講習会修了者:68名
- ・第4回講習会の未修了者(再受講者):2名(PT)
- ・受講辞退者:1名(PT)
- ・未履修科目により受講の修了を認めない者:5名(PT)
- ・修了見込み者:85名(PT 52名, OT 27名, ST 6名)

(主な意見)

特になし

12. 生涯学習制度の見直し状況について (湯元副会長)

生涯学習制度の見直し状況について、報告がなされた。

(主な内容)

2025年12月の理事懇談会において、本会の生涯学習制度の方向性（会員のキャリア形成支援と社会に対する質の保証を両立させることを目的とする）について合意がなされたことを受け、2026年1月より生涯学習制度検討部会を立ち上げたため、報告がなされた。

なお、生涯学習制度検討部会の下に3つの見直し部会を設置し、登録理学療法士制度、認定理学療法士制度、専門理学療法士制度の在り方について、現在、具体的な検討を進めているところである。

(主な意見)

特になし

13. 「中屋久長先生を偲ぶ会」の開催について

(白石専務理事)

「中屋久長先生を偲ぶ会」の開催について、報告がなされた。

(主な内容)

本会の元会長として、わが国の理学療法士の普及・向上に大きく貢献され、本会の発展に長年尽力された中屋久長先生（享年86歳）が、2026年2月1日にご逝去された。

本会としてその功績を広く顕彰するとともに、会員が哀悼の意を表する機会として「中屋久長先生を偲ぶ会」の開催に関して、今後検討をすすめる予定であることについて、報告がなされた。

(主な意見)

特になし

14. 常任理事会の会議報告について

(白石専務理事)

常任理事会の会議報告について、報告がなされた。

(主な内容)

常任理事会の会議報告について、以下のとおり報告がなされた。

2026年3月3日開催常任理事会 議題

- ・組織運営協議会（拡大）の議題について
- ・第61回理学療法士国家試験不適切問題に関する意見書提出について
- ・U-SPORT PROJECT コンソーシアムへの加盟およびパラスポーツ推進プロジェクト公募への申請について
- ・理学療法分野におけるDX推進に関する意識・実態調査の実施について
- ・日本赤十字社・JICA(国際協力機構)との共同シンポジウムの開催について
- ・JICAとの連携事業における海外協力隊派遣(2026年度3次隊, カンボジア王国)

2026年3月10日開催常任理事会 議題

- ・理学療法士が主人公の漫画作品の広報活用について
- ・組織運営協議会（拡大）の議題について
- ・「法人葬」の実施に関する規程（案）について
- ・がんのリハビリテーション・リンパ浮腫診療ネットワークコンソーシアム 総会報告

2026年3月17日開催常任理事会 議題

- ・ 75周年記念 世界理学療法連盟への注目すべき理学療法士の推薦について
- ・ 法人葬及び偲ぶ会の実施に関する規程（案）について
- ・ 令和7年度 日本医療研究開発機構(AMED)
「災害リハビリテーション支援のための生活機能トリアージ・災害診療記録アプリケーションシステム開発に向けた研究」エキスパートパネルへの協力依頼
- ・ 第55回定時総会の議題について

2026年3月24日開催常任理事会 議題

- ・ 非公開議題
- ・ 名誉会員（及び名誉会長）規程変更案についての件
- ・ 令和10年度診療報酬改定対策強化推進部会の設置について
- ・ 「SAFE コンソーシアム」事務局運営公募企業の申請結果と高年齢労働者の労働災害防止対策事業公募の申請に係るご依頼について

2026年3月31日開催常任理事会 議題

- ・ 他協会へのお願いについて

(主な意見)

特になし

以上